

平成30年7月豪雨の衝撃

今年も残すところ僅かとなりましたが、今年ほど災害の多い年は記憶にありません。

台風到大雨、地震と全国各地に甚大な被害をもたらしました。その中でも特筆すべきは『平成30年7月豪雨』と命名された7月の西日本豪雨です。

- ・全国で死者・行方不明者229人
(うち広島県114人、岡山県64人、愛媛県26人)
- ・土砂災害 全国で1464件
(うち土石流465件、地滑り50件、崖崩れ949件)
- ・護岸損壊、河岸浸食
(国管理53河川 うち決壊2ヶ所、都道府県管理399河川
うち決壊35ヶ所)
- ・住宅被害 全国で全壊3758棟、半壊3620棟、床上浸水1万4159棟、床下浸水2万822棟



八東川(若桜町地内)

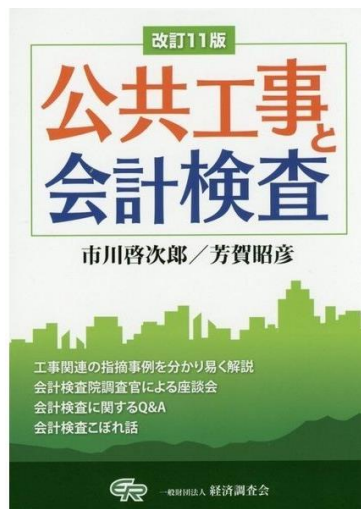
台風7号の通過後に梅雨前線の影響で、西日本の広範囲で観測史上最大の降水量を記録し、大量の雨と土砂が住宅地に流れ込んで大きな被害になり、鳥取県でも護岸の損壊などを中心に数百カ所が被害を受け死者も出ました。

10月に出雲市で京都大学大学院教授、安部内閣の内閣官房参与でもある藤井聡先生の講演をお聞きする機会がありました。タイトルは『インフラ政策が日本を救う』。



その中で「今、わが国には、デフレ脱却、防災、・国土強靱化、地方創成、そして財政再建、なすべき国家的課題が山積している。これらの諸課題への処方箋について、多くの知識人、政治家たちは、どういうわけか規制改革や民間活力の活用といった取り組みばかりを持てはやし、高速道路や新幹線、パイプラインなどのインフラについては一切論じようとはしない。それどころかインフラについて語ることにそれ自体が前近代的でかっこ悪いものであるかのように論じ、インフラを蔑みながらバッシングすることがインテリの証であるかのように振る舞っている。」と主張していらっしゃいました。

『列島強靱化論』や『公共工事が日本を救う』でも我が国のインフラが先進諸外国と比較して、いかに未整備で脆弱なものか、またインフラ整備に取り組むことが景気対策や財政再建にいかに有効かを主張していらっしゃっていましたが、今回の災害を教訓にインフラの強靱化、整備が大きく進むことを期待します。



会計検査

『公共工事と会計検査』の改訂 11 版より「会計検査Q & A」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の芳賀 昭彦(はが あきひこ)氏は昭和 30 年生まれ。
元会計検査院農林水産検査第 4 課長を務め、現在は一般財団法人経済調査会技術顧問としてご活躍中です。

今月の質問： 災害復旧工事の検査



質問

東日本大震災で公共施設が大きな被害を受けたが、なかには経年劣化している施設もあり、この際耐震性の高い施設に更新したいと考えた。しかし、災害査定では機能増強は認められず、また、復旧は今回被災した箇所限定するということで、例えば市道の舗装復旧はパッチワークのような舗装となってしまうことから、沿道の住民からは路線全体の舗装修繕を要求されている。会計検査院はこうした復旧対象についても検査するのか？

回答

災害復旧は基本的に公共的な施設について従前の機能を回復させるものです。したがってそれ以上の機能の向上は基本的には災害復旧の範疇を外れると考えられます。

ただし、もともとの施設の機能が不十分である場合には災害復旧だけでは十分でないこともあります。そうした場合には災害復旧費に併せて別途に施設改良のための費用を投入することで、効用を増大させ、安全度を高めることができます。この別途改良費は一定基準を満たし、効用の増大が確認できる場合には、改良復旧事業と呼ばれる補助制度がありますので、その活用を検討されたいかがでしょう。

パッチワーク舗装となると確かに住民からは評判が悪いでしょうが、被災していない箇所を災害復旧事業で実施することは容認されませんので、その部分は単独費を投入するなどしなければならないと思います。

また、会計検査院は、昭和 30 年代から 40 年代までこの災害復旧工事が適切に実施されているかについて、災害査定後が終わり復旧工事が着手される前に現地に入って災害査定が適切に行われているかの検査を実施し、災害に便乗した改良工事等を数多く指摘してきました。しかし、その後、災害査定が厳格に実施されるようになり、こうした事態は改善されたと判断し、その後査定検査については行っていません。

災害復旧工事自体は当然会計検査対象で、同工事が検査報告となっている事例も時々ありますが、それらのなかには災害査定と工事内容が合致していないとしているなど、検査院も災害査定を基本的に尊重し、検査をするように見受けられます。



レオ

ちゃんの製品紹介コーナー



特注・規格外品

こんにちは！ ライオン通信のレオちゃんです！



今月は、特注で製作した規格外の製品をご紹介します。

『既成品では合う寸法の製品がない…』
『こんな場所に使いたいけど大丈夫かな…』
『どんな寸法でも対応できるのかな…』
などの困りごと、ございませんか？

お客様のご要望を形にしていきます。
お気軽にご検討・ご相談下さい！

山からイノシシや鹿が下りてくる際に土砂が水路内に入るため、既設の水路寸法に合わせたコンクリート蓋を作れないかとご相談頂き、納入しました。
蓋の表面はホウキ仕上げになっています。

寸法： 490×490× t 40



【施工前】



【施工後】



♪お客様の声♪

鳥取県岩美町／北村様

水路幅に合わせた蓋の対応ありがとうございました。出荷時の対応が良かったです。
また来年も使用する予定なので、その際はよろしくお願いします。

北村様、ありがとうございました。
何年かに渡ってご使用頂くということで、長いお付き合いになることを嬉しく思います。
気になる点やご要望等ございましたらお気軽にご連絡下さい！



◆◇ 出荷までの流れ

① お問い合わせ

お客様からどのような場所に、こういった用途で使いたいのか等、詳細のご希望をお伺いします。



② 検討

どのように制作するのか、検討します。



③ 図面を作成し、提案

ご要望に基づいて、図面を作成しご提案します。



④ お見積り、成約



⑤ 型枠作成

製品の形状や製造数に応じて型枠作成を行います。



⑥ 製造

必要部材などを組み込み、コンクリート打設を行います。



⑦ 養生

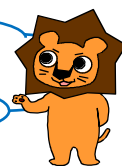


⑧ 出荷

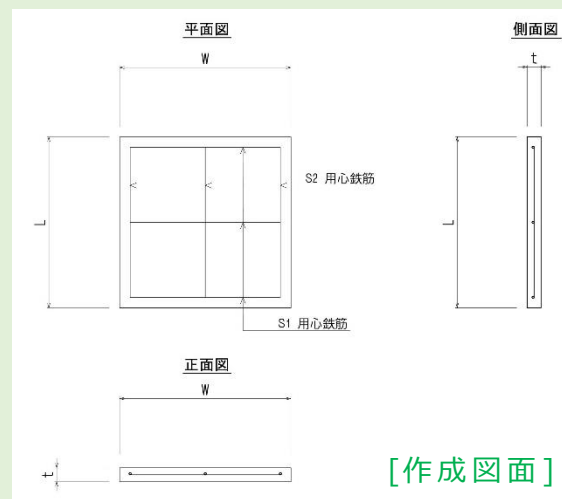


既設の水路にピッタリ！

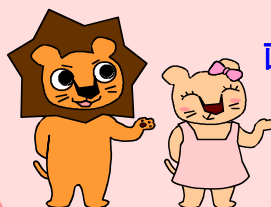
お問い合わせ頂いてからの流れを詳しくご紹介します！



既設の水路寸法にあわせたコンクリートの蓋が欲しい！



◆ 製品に関するお問い合わせ☆資料請求は



直通電話: **0858-73-0500**

までお気軽にどうぞ！

FAX: **0858-73-0535**

E-mail: **info@kooge.jp**

↓ HP もご覧下さい ↓

こおげコンクリート

検索

kooge.co

検索

側溝・擁壁などの
コンクリート製品



オブジェ・什器などの
デザインプロジェクト



◆◇ 編集後記 ◇◇

2018年も残りわずかとなりました。
今年も弊誌をご愛読いただきありがとうございました！
来年もより良い情報を皆さまにお伝えできるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。（土田）



♪ 年末年始休業のお知らせ ♪

弊社の年末年始の休業日は下記の通りとさせていただきます。

12月29日(土)～1月6日(日)まで

※1月7日(月)から平常営業致します。

<URL> <http://www.kooge.jp/>

<e-mail> info@kooge.jp